

国重文 岩瀬家

岩瀬家住宅の建物は、現存する合掌造りの家屋としては五箇山地区だけでなく日本全国でも最大級のもので、約300年前に建造されたこの建物は、間口26.4m、奥行き12.7m、高さ14.4mの5階建ての家屋で、通常は数世代の親族が同居していました。1958年に重要文化財に指定されたこの家屋は、建設当時の木の梁を中心とする構造が残っているため、合掌造り建築の代表例と言えます。さらに、客間は書院造と呼ばれる上級武士の屋敷に典型的に見られる様式で建てられています。建物の左側には大きなケヤキ材の梁が建築当時の姿のまま残っており、反対側にある書院造の部屋には細部まで美しく仕上げられた井波彫刻の装飾が施されています。井波彫刻は井波（現在は南砺市の一部）周辺で作られる伝統的な木彫りの手工芸品です。ほとんどの合掌造り建築と同様に、岩瀬家住宅も金属の建材や釘は一切使用せず、天然素材の接着剤、強靱なツタや藁縄で木材を組み上げて建てられています。茅葺きの屋根にはカリヤスという日本原産のイネ科植物の一種が使われており、25年に1度葺き替えが行われます。